

裏町のピーター・パン・ストリート・プレイ版

第一幕

とある街角 道ばたにたむろしている二人 一人は、手にした絵本を読んでいる

たける

「……ところが、ピーター・パンは、さりと空ンディーをうけとめました。そして、ふねにとびあがり、手下たちをぎろぎとやっつけました。「さあ、フック。こらしめてやろ」「なに、なまひきな、えいっ」力ひっぱ、剣をふりまわしたそのひょうし、フックは海ドボ。」「わわわわ、わにだ。たすけてくれ」「わあ、ばんざい、やっけた。子供達は、おおよるこび。ティンカールは、みんなにあやまりました。もちろん、みんなはゆるしてあげました。空ンディーとジョンとマイケルは、海賊船、おとうさん、おかあさんの待つ家に送ってもらいました。「さようなら、ピーター・パン。みんな、さようなら」「さ」と、またくるよ。さようなら」

ねずみ

もう捨てちまえよ、その汚本

たける

やだね

ねずみ

捨てきて三日もたつのに、よく飽きずに読むよな

ねずみ

そいつは捨ててあたんだろ。前の持ち主が、そいつがくだらなひと思たから捨てちまんだよ

たける

じゃあ、おまえもくだらなひと思たから捨てられたのか？

ねずみ

多分な。捨てて子なんてみんなくだらなひもんよ

たける

俺は捨てられたとは思ってないぞ

ねずみ

追い出されたんだよな

たける

見捨ててやっただよ

ねずみ

何を

たける

大人の世界を

ねずみ

わかつた、わかつた。読みたければ俺の見ていなところで、俺に聞こえないように

読んでくれ

たける

つまんない、やっだな

ねずみ

休憩終わり。仕事だ

たける

よし！

二人立ち上がる

ふたり

カンパお願いします

そへ、克也と朋子

克也

だから、彼女お

たける

カンパお願いします

ねずみ

やめる

たける

なんで

ねずみ

あれ、チンカツだぞ

たける

隠れる

ふたり、物陰に隠れる

克也

この辺は、さうだからさ、俺が付き合せてあげるよ

朋子

え、でも

克也

そう言わずにさ

朋子

あの、どちらさまですか

克也

は、きり言うけどさ、俺この辺りを仕切てるのよ。悪、連中も、俺の顔見ると

朋子

逃げ出すの。

克也

本当ですか

克也

なんだよ、信じてないの。

朋子 だて、そんな偉そうな人に見えないんですもの。

克也 ななそこがいいところなんだよ。男はさいくら偉くても、偉そうな顔をしちゃダメなんだよ。でもわかるでしょ、体中からあふれる正義パワー。

克也 ボディービル的なポーズを取る。

朋子 踊ってるんですか。

克也 いや、ほらこのあたりにさ。

ねずみ あれ、もしかして口説いてるのかな。

たける きれいな人だな。

ねずみ ああ、女の人か？

たける うん。

克也 このあたりでのさばってる大島カンパニーってあるじゃない。あれさいろいろ悪いことしてるみたいだけど、このあたりはさ、俺がいるから近寄れないの。

朋子 大島カンパニーって悪いことしてるんですか。

克也 してる。君みたいなきれいな子が一人で歩いてたら、すぐやられちゃうよ。

朋子 なにをされるんですか。

克也 いや、そうやってまじめな顔で聞かれると照れるけどさ、あんなことか、こんなことか、ちよと耳貸して。

克也 朋子に内緒話

たける おい、耳さわってるぞ。

ねずみ なにあせってるんだよ。

たける だて。

ねずみ 大声出すな。

克也 朋子から離れる

克也 な、そうやって悪いことばかりしてる大島カンパニーから、俺は人々を守るわけだ。

朋子 そうなんですか。

克也 感動したか？

朋子 はい。

克也 それだけじゃないんだ。この辺りにはさ、悪ガキがうろついてるんだ。

たける 俺達のことか。

ねずみ 多分。

朋子 ワルガキってなんですか。

克也 なんか、こう、態度の、かいガキがふたりでさ。

朋子 ガキってなんですか。

たける 少年と見え！

物音に気づいて振り返る克也

たける わんわん

ねずみ にゃあおお

朋子 少年ですか？

克也 少年なんてもんじゃな、汚いんだ。もうからだ中ぼろぼろでさ、しかも態度が

でかくて頭悪いの。

たける 言いたいこと言ってくれるな。

ねずみ ぶん殴ってやろうか。

ねずみ 立ち上がりかける。たける あわてて止める。克也 振り返る。

克也 なんだよ、あいつらか？

克也 は見当違いのところを目で探しているが、朋子は隠れている二人に気がつく。

克也 あいつら金ないからさ、君みたいな人がふらふらしてたら、あいつらすぐにたかってくるから、俺がついてさ、守ってやるよ。

朋子 お話したいな。

克也 誰と。

朋子 その、ワルガキさんたち。

克也 なに言ってるんだよ、汚いぞ、病気が移るぞ。

ねずみ あのやろう！

克也 十メートルくらいの所に来ただけでさぶーんと匂いがするんだから、俺はあつらへ人間生ゴミうてよんでるの。

たける おい、大島カンパニーのものだ！

克也 は！

と深おしぎ

克也 どうも、気がつきませんでした。失礼しました。お知らせいただければお迎えに参りましたのに。

たけるとねずみが出てくる。

ねずみ お知らせいただければだと！おまえごときチンピラになぜわれわれが連絡しなければならぬんだ。

克也 はい、失礼いたしました。

たける 今後気を付ける。

克也 はい。

たける この女だが、おまえの知り合いか？

克也 はい。いいえ。

ねずみ どっちだ！

克也 そこで知り合いました。

たける よし。俺達が預かる。

克也 え？

顔をあげたとたん、相手の正体に気づく。

克也 なんだ、おまえたちか。

たける おまえたちとはなんだ。どうせ俺達は生ゴミだよ。

ねずみ どうせ病気持ちだよ。

克也 またく、脅かしゃがて、(朋子に)こいつらだよ、こいつら。

朋子 たけるたちに近寄ろうとする。

克也 やめるよ、病気が移るぞ。

ねずみ てめえは、たおすぞ。

克也 やれるものならやってみる。

ねずみ 上等じゃないか。

にらみ合う二人、たける、克也から財布をすり取る。

たける おい、これはなんだ。

克也 やばい。

朋子 それは、私のお財布です。

ねずみ なあんだ、珍しく損得抜きで女を口説てるのかと思たら、ただのスリじゃないか。

克也 なんだと。

たける お嬢さん、これがチンカツの正体ですよ。

朋子 チンカツ？

ねずみ チンピラの克也、略してチンカツ。最低の男だよ。

克也 貴様ら！

たける あー！大島カンパニーだ！

克也 どうも、気がつきませんでした。失礼しました。お知らせいただければお迎えに参りましたのに：：：だましたな。

ねずみ ばーか。

克也 ちきしょう、覚えてろ。

たける じゃあな。

克也 去っていく。

ねずみ 進歩のない奴だな

たける そんなに大島カンパニーがこわいかな

ねずみ ただ臆病なだけだろ

たける うん ほら あんたの財布だろ

財布を投げ渡す。

朋子 ありがとうございますました。

たける 気にするなよ。

朋子 あ、ご病気なんですか。

ねずみ あんな奴の言うこと真まに受けるなよ それよりさ 俺達から言うのも何なんだけど。

朋子 はい。

ねずみ 助けてもらったらそれなりの礼儀れいぎもあるよな 落とした財布拾ってもらえば一割お礼するわけだし…。

朋子 分かりました。お金がなひんですね

ねずみ まあはっきり言えばな

朋子 私もなんです。

たける え？

ねずみが財布を改めると確かにからっぽ

ねずみ あんたいいところのお嬢さんじゃないの？

朋子 お金でわたし触ふなことがなひんです。いつもヒデ爺おやが出してくれたから

ねずみ ヒデ爺？

朋子 一とつても優しい人なんです。こんな太おてて髭ひげはやしてるんだけど、私が行くところにはいつもついてきてくれるんです。

たける 本当のお嬢さまなんだ。

ねずみ で、今日はその、ヒデ爺おやは？

朋子 寝ねます。

ねずみ いつもついてくるんじゃないの？

朋子 そとと近寄ちか寄よて後ろからポツッて蹴く飛ばしたらソファソファの向むかうまで飛んでいて寝ねちやいました。

ねずみ 家出してきたんだ、一文無しで。

朋子 はい。

ねずみ 嬉うれしそうな顔するなよ。で、なんで家出いちだしたんだ？

朋子 子供の頃からピーターパンが好きだったんです。

ねずみ ピーターパンねえ、幾いく？

朋子 一九。

ねずみ 一九才ねえ。

朋子 でもいつになってもピーターパンが迎えにこないから、私、自分おれで行くことにしたんです。

ねずみ どへ？

朋子 ネー、ランボ。

ねずみ ピーターパンに会いに？

朋子 はい。

ねずみ ダメだ、こりや。

朋子 遠とほいんですか？

たける 心配するなよ。俺達おれが連れてってやるよ。

ねずみ どへ？

たける ネー、ランボ、いきたいんだろ。俺達おれが連れてってやる。

朋子 うれしい！

ねずみ おい、ちちと、いよ。

ねずみが たけるを隅すみにつれていく

ねずみ おまえ、気きでも狂くるたのかよ。

たける なんだよ。

ねずみ 俺は知らないからね おまえ 何とかしろよ
たける そう言わずにつき合えよ
ねずみ なにか？緑のタイツはいて 空飛ぼうっていうのか おまえがピーターで 俺はティンカドルか。てめえ 連れてくるものなら連れてきてみるよ
たける いいじゃないか。だてて うれしそなんなん
ねずみ 俺は一文の得にもならないことはやらない主義なんだよ
たける いいかよく聞けよ。あの人はどうみても金持ちのお嬢さんだよな
ねずみ だろうな
たける でだ。俺達が彼女の家を探し出して送り届けるわけだ
ねずみ めんどくさいな
たける 捨たものでも一割のお礼だよな
ねずみ うん
たける 大金持ちの親にらて娘の価値てのは どれくらいのもだろう
ねずみ 十億はくだらないな
たける 一割でも一億だな
ねずみ よし、乗た
たける いいだろう
ねずみ 本当にそれだけだよな おまえ なんか変なこと考えてないよな
たける なんだよ 変なことして
ねずみ まあいい。付き合うよ
朋子 いつ出発するんですか
ねずみ そうですわね
朋子 ネー、ランドルトで遠いんですよ
ねずみ なに、すぐそこですよ
朋子 でも 私はずが飛んなんです
ねずみ 教えてくださいよ
たける 調子に乗るなよ

ねずみ つきあえていったのは誰だよ
朋子 教えてもらえますか
たける まかせてください。
朋子 ありがとうございます。まず どうするんですか
ねずみ ちうと待ってください。そんなに急にいわれても
たける いろいろ訓練をしなければいけませんよ
朋子 でも、空ンディーは、すぐ飛たと思うんですけど
ねずみ それはおとぎ話：いや、まあ体重に依している。コースがあて
朋子 私、本てますか
たける いや、そういってわけじゃ。おい。
ねずみ まあ、その、ちうとだけ
朋子 わたし、痩せます
たける いや、そんなむきにならなくても
ねずみ じゃあ、とりあえず俺たちの隠れ家に行きますか。明日から訓練開始でいこと
で
朋子 はい。
一同 帰る。暗転

第二幕

この地区の警察署長の私宅。署長の部屋。一人息子の太郎が、署長と向かい合っている。ただし舞台上には署長は登場しない。

太郎 結婚！
署長 ……
太郎 久しぶりに水入らずで話そうなんて言出すから、何かと思たらなんなんですか？
署長 ……

太郎 いやとか、そういう問題じゃなくて、結婚なんて本人の意志の問題でしょ。いきなり結婚相手がいるから結婚しろと言われて、はいそうですか、というものじゃないでしょ。

署長 ……
太郎 そうですよ。だいた、僕が保護観察員になつて、お父さんが勝手に「おまえもわしのあとを継いで警察官になれ」なんて言出すから、困つた挙句まあ顔を立てて似たような仕事を選んだんですよ。僕が人並にやりたことだからであつたんですよ。

署長 ……
太郎 まあ、なんだと言われて答えるような仕事じゃな、い、すけど。

署長 ……
太郎 お父さん、もしつこいな、童話作家ですよ。どうやら、子供が好きだつたんですよ。だからまあ、子供と接してられる仕事がよかつたんですよ。

署長 ……
太郎 少年課？ 勘弁してくださいよ。そんなに僕を警察官にしたいんですか。お父さんのところみたいになんでもかんでも少年院にぶちこんだんじゃ、解決しないんですよ。

署長 ……
太郎 怒らないでくださいよ。少年課の警察官と保護観察官じゃ、役目が違うんだから、とにかく僕は忙しいんですよ。結婚なんてまだまだ先のことです。きばりお断りします。

署長 ……
太郎 美人だぞ、て、そういうことをいつてるんじゃないんですか。で、どういう人なんですか。

署長 ……
太郎 だから、美人は分かりましたよ。まあ、ほかにはその、スリーサイズとか。

署長 ……
太郎 大切な問題ですよ。

太郎 大島カンパニー？ あのやくざ集団ですか。

署長 ……
太郎 今は株式会社だつて、お父さん、警察署長じゃ、ないですか。あつらの正体なんて、子供でも知つてますよ。それを…。

署長 ……
太郎 気でも狂つたんですか。何で僕が大島の一人娘なんかと、失礼します。

署長 ……
太郎 どうへつて、街、出るんですよ。子供達が僕を待っているんですよ。とにかく、この話は、なからたことにしてください。

太郎 懽然として去て行く。

第三幕

たけるとねずみの隠れ家。たけると朋子が入ってくる。

たける ここが俺たちの隠れ家です。

朋子 隠れ家？

たける まあ、家みたいなものです。

朋子 ここがおうち？

たける 汚いところですよ。

朋子 はやくお部屋に案内してください。ピーター・パンのお話を聞かせてくれる約束ですよ。

たける あ、ここがお部屋なんです。

朋子 はい？

たける ここがお部屋、ここが玄関です。

朋子 お台所は？

たける ここです。

朋子 寝室は？

たける 二です。
朋子 もう一人の方のお部屋は？
たける 二です。あれでも女なんで一応気は遣ってます。
朋子 食堂は？
たける 二です。
朋子 おトイレは？
たける あ、外なんです。あ、大丈夫です。ちゃんと草むらもあるんです。
朋子 お風呂は？
たける 裏に小さな川があって、あ、冬はちあちと寒いです。
朋子 お手伝いさんはどこにいるの？
たける 二です。
朋子 え？
たける 僕を召使だと思ってください。僕、これでも働きの者なんです。あ、もう一人、たぬ、あいつねずみっていうんですけれど、あいつはダメです。ただうるさいだけで、何にも出来なひんです。でも、僕は一生懸命やりますから、あ、小さくて汚ところだけに、迷惑かけなひように頑張りますから。
朋子 あなたはお手伝いさんじゃなひです。召使でもないし、お友達です。
たける はい。
朋子 わかりやあ、それでいいんだよ。
たける はい……え？
朋子 あ、私、真似してみたんですけれど、おかしいですか。
たける いや、その、なんとか、びくりしました。
朋子 二しましたなひて言わなひてください。
たける じゃあ、「びくりしたじゃなひかよ」
朋子 そうです。そういう風にお話ししてください。じゃあ、「びくりしたかよ」
たける ああ、たまげたぜ。
朋子 ちと言てください。

たける またく、お嬢さんだと思ってたらとんでもない奴だな、でもよ、案外おまえいい奴だな。
朋子 どうですか？
たける どうですか？はダメ。
朋子 じゃあ、「そうかな」
たける そうさ、気に入らなひ。
朋子 とそこにねずみが帰ってくる。
ねずみ おい、今日はめし、どうするんだ？
朋子 なんだよ、ねずみ、びくりしたじゃなひかよ。
ねずみ おい、たける、おまえ、この人に何かしたのか？
たける なにもしちゃいなひよ。
朋子 な。
ねずみ 目覚めたのか、この人。
朋子 おい、あなたたちみたいな服、なひかよ。
ねずみ 服？
朋子 あ、そういう変わった服が私もきてみたんだけど、そういう姿をしていると、何となく空を飛、そう、な気がするんです、だぜ。
ねずみ おい、このしきり方なんかしてくれ。
朋子 おかしいですか？
たける いえ、とんでもない。
たける それでは、服を貸してください、だよ。
朋子 でも、汚から。
朋子 そんなことなひです。なんだか、二にびたりして、動きやすそうだし、わたし、ワルガキさんになってみたんです、だぜよ。
ねずみ まあ、本人がそういうんならなひ。
朋子 うれしい！

服を脱ごうとする。ねずみ 止める

ねずみ ちよと待てよ

朋子 だめですか

ねずみ まあ、俺の服は貸してやるから、ここで着替えるなよ

朋子 でも、ここで寝るんだったら

ねずみ おまえ、妙な下心はないっていったよ

たける 当たり前だろ。ほら、このぼろ貸してやるから、裏の草むら行って着替えていよ

朋子 はい。

着替えを持って朋子が去る。

ねずみ 知らないよ、俺、頭がおかしくなってきた

たける 本当に純粋な人だよ

ねずみ 馬鹿だよ、ありや、で、どうするんだよ

たける とにかく、あの人の口に合うような食物を探してこないと

隅にある空き缶をひっくり返すと中から小銭が落ちる

ねずみ おい、なにするんだよ

たける ちよと買い物に行くよ

ねずみ それ、ここ三ヶ月かかて貯めたんだぞ

たける その割には少ないな

ねずみ おい、どんなご馳走を買ってくるもりなんだ。相当あるはずだよ

たける ばか、俺たちがいつも喰っているようなものと一緒にするなよ

ねずみ 待てよ、二人が賛成しなければこの金には手をつけなかって約束したじゃな

たける なんだ、おまえ反対か

ねずみ 当たり前だろ。三ヶ月の苦勞をどちかのお嬢さんの気まぐれに付き合せて、バーに出

来るかよ

たける 明日稼げばいいんだよ

ねずみ 明日は空の飛び方を教えるんじゃないのか

たける :

ねずみ 大体おまえ、本気で考えてるのかよ、あつの家見つけて礼金をもらうんだろ。そ

れには金もかかる。元手があるんだよ、おい、おまえ、本気で探す気あるんだろうな

答えるよ

たける 行ってくる

ねずみ やめる、俺はまだ賛成してないよ

たける 殴るぞ

ねずみ やってみる

にらみ合う二人、そへ、朋子が着替えて戻ってくる

朋子 にらめこしてるのかよ

たける 腹減、ただろ

朋子 腹減、た?

ねずみ お腹がすいてなにか贅沢なものでも食たいんじゃないやありませんか、て言ってるんです

よ、ああ、またゼロからのスタートか

朋子 食たくありません

たける でも

朋子 私、ダントツします。少しでも早く空を飛ぶように

ねずみ 参たね、これは

いきなり太郎がひてくる

太郎 こんばんね

ねずみ なんだよ、勝手にひてくるなよ

朋子 てめえ、誰だよ

太郎 なんだ、新しい仲間が増えたのか

たける 悪いかよ

いや、そういうわけじゃなけど、ね、食るものとか寝るところのことを考えると

少し気になるな

ねずみ 関係ないだろ

太郎 そんなことはないさ。見たところきれいなお嬢さんじゃなにか。お嬢さんいったいどうしてこんなところにいるんですか。

たける こいつはお嬢さんなんかじゃなげ。俺たちの仲間でさ。朋蔵っていうんだよ。北のほうから流れてきて、偶然一緒になっただよ。

太郎 そうか。で、お腹はすいてないか。本当はきちんと保護者のところに帰るのが一番だが、なかなかそれも行かなげらしい。とにかく仕事だけはとりあえず探しておくから、今度は逃げないでちゃんとやるんだよ。

ねずみ はいよ。

太郎 じゃあ、僕はこれで。朋蔵君、明日また来るよ。今日はまだゆくり話をする気分じゃなげだろ。うから、明日これからのことを相談しよう。おやすみ。

太郎 帰る。

たける またく、お節介な奴だ。

朋子 あの友、お名前はなんっておしゃるんですか。

ねずみ あの方なんて立派なもんじゃなげよ。保護観察員の神谷太郎、あわれな俺たちを守てくれる。正義の味方だよ。

朋子 太郎さん、おしゃるんですか。

ねずみ ああ、食物を持てきたり、仕事を紹介しようとしてたり、まあいろいろとお節介な奴だよ。

朋子が座り込む

たける どうしたんだよ。

朋子 わからないの。何だか胸がいたくて。

たける ああ、こんな汚いところにいたから、おい、窓開けるよ。風いれなきや。あと、俺水くんでくるから、ちょっと待てて。

朋子 違うの、なんか胸の奥が締め付けられるみたいで、こんな気持ちになたの、初めてなの。

たける 大丈夫ですか？

朋子 たぶん

ねずみ いつからそうなっただよ

朋子 さあ、あの太郎さん、て方がいらしちてから

ねずみ そいつは病気だな、やば、病気だよ。

たける 病気？

ねずみ ああ、「」から始まるやば、病気、寝るのが一番だ。

朋子 でも

ねずみ きらといつがピーターパンの話でもしてくるよ。その病気についてはな、俺結構詳しいんだよ。ほら、この辺でいいだろ。

朋子 わかりました。

朋子 横になる。

たける あの、

ねずみ 俺も寝るぞ。

たける ねずみ、離れたところに横になる。たける、ピーターパンの本を読み始める。

「ピーターはいいました。僕と一緒にネーランド行こう。そこには仲間がいる。永遠に大人にならない仲間たちと、一緒に楽しく暮らしていこう。僕らにはお父さんもお母さんもないけど、楽しい時に一緒に笑える、つらいことにもみんな、立ち向かう。そんな仲間がいるんだ。」

朋子 いつの間にか寝息を立てている。

たける 寝ちぢたよ。疲れてたんだな。

ねずみ あ、い、う、間の失恋、たな

たける なにが。

ねずみ ごまかすなよ。

たける 俺も寝るか。

第四幕

次の日の朝 署長室

太郎 おはようございます。

署長

朝からなんですか。結婚のことならもう断りましたからね。

署長

延期？いつたいつの予定だったんですか？

太郎

み 三日後 そんなの延期にならないほうがどうかしてるんですよ。まあ 僕に関する限り無期延期ですけどね。

署長

ともかく、この件でもう僕を呼び出したりしないでください。失礼します。

署長

街の様子ですか。どうしたんです。いきなり。僕が保護観察員になってから、そんなこと気にしたことなかったじゃないですか。

署長

いろいろですよ。毎日きちんと学校に言っている子はいませんが、問題はホームレスの子供なんです。僕らもきちんとした施設をくつろぐもりなんです。どういふ訳かそこを逃げ出してしまふ子供がいるんですよ。最初はなんとかして連れ戻そうとしていたんですが、最近は彼らを心のそこから理解しようと努力しているんです。

署長

確かに速回りですよ。でも、理解することしか彼らをつかんでおくことは出来ないと思いますが。お父さんたちみたいに、閉じこめていたんじゃないダメなんです。彼らはまるでピーターパンのように、自分たちだけの世界で大人になることを拒否して生きてるんです。

署長

ピーターパンを知らないんですか。

太郎

署長

。。

太郎

そうですね。おとぎ話ですよ。でも、おとぎ話の中にしかない真実もあるんです。僕らには分からない彼らにとつての真実があるのなら、僕はそれを知りたいんです。ではこれで、僕は忙しいんです。もう結婚とか、無駄な話で呼び出さないでください。

太郎 去る。

第五幕

街角 克也が携帯電話で話している。

克也

人捜しですか。任せてください。どぶさらいから 銀行強盗まで、大島カンパニーのためなら、どんなことでもいたします。

電話

克也 はい、当然です。秘密厳守！

たける ねずみ 朋子がやってくる。

克也

わたくし、こう見えても口が堅いんで有名なんです。大島カンパニーが逃げた女を捜していることなんて、誰にも言いません。失礼します。

克也 電話を切る。

ねずみ

カンパニーの下端は大変だな。

克也

なんだよ。おまえら、人の話を立ち聞きしてたな。

ねずみ

おまえのくだらない使っ走りなんて、興味ないね。

克也

使っ走りだと。これは秘密厳守の重要任務だ。俺はおまえらみたいなガキとは格が違うんだよ。

ねずみ

何言ってるんだよ。ただの迷子捜しじゃないか。

朋子

みんなを探しようよ。

ねずみ

あんた、何にも分かってないんだよ。

克也

おまえ、昨日のあの女か？

たける 朋蔵に話しかけるなよ。

克也 朋蔵？ほお おまえこいつに惚れてるのか。

朋子 惚れる？

克也 この間教えたろ。あんなこととかこんなこととか もうされたか？まあ 無理だな ガキだもんな 恋だよな。

たける 黙れ

克也 おおこわいこわい。ま 少年少女は勝手に不純異性交友してくれや。俺は忙しいんだよ。

克也 去る。

朋子 あの方は何をおしやてたんですか。

ねずみ 説明しろよ。

たける うるさい。

ねずみ ばらと告こくちませよ。

たける おまえそれ以上言たら殺すぞ。

そへ 太郎がやってくる。

太郎 いやあ けんかはよくないね

ねずみ また来たか。

太郎 みんなそろそろてるね これはちょうどよかた。ああ 朋蔵君

朋子 朋子と呼んでください。

太郎 朋子君、それが君の本当の名前なんだね

ねずみ じゃあな

太郎 おと、今日はそういう訳にはいかなんだ。昨日つてた仕事のことだけどいいのが見えたよ。多分今度は気に入ってもらえると思うんだ。

ねずみ 帰るよ。

太郎 だめだめ。お好み焼き屋さんの売り子なんだ。まあいろいろ都合もあるだろうけど、苦勞して探してきたんだから、こんな道路に座ってるよりずっといいぞ。さあ

これが着替えた。一度冢に帰って水でも浴びて、きれいになって公園に集合だ。

ねずみ おまえがやれよ。

太郎 いやあ 嬉しいなあ。今夜の夏祭りは燃えるぞ。これ、君のね

朋子 はい。

太郎 じゃあ、きちんと着替えてお昼に集合な。昼はちぷりお好み焼きが食られるぞ。さく、打ち合わせ、打ち合わせと。

服を置いて太郎が去っていく。

ねずみ 疲れるんだよなあ。あつ。でもこの服、古着屋に叩き売たら飯代くらいにはなりそうだな。それでいこうぜ。

ねずみ 服を集めるが、朋子が服を持って離さない。

ねずみ 離せよ。

朋子 いやです。

ねずみ 離せていつてるだろ

たける やめろよ。

ねずみ こんなもん、どうするんだよ。まさかこんなもの着て出かけるつもりなのか。

たける そうだよ。

ねずみ おまえ、本気か。いいかげんにしろよ。おまえ、馬鹿だよ。目が見えないのかよ。この女は太郎のこと好きなんだぞ。そんなの一目見れば分かるじゃないか。

朋子 私が、太郎さんのこと、好きなんですか。

たける ちうと、先に行つて着替えていてくれなにか。

朋子 でも

たける 早くしてくれよ。

朋子 去る。

たける 言いたことがあたら言えよ。

ねずみ 別にいいよ。

たける 朋子さんが 太郎のこと好きだて言いたいんだろ

ねずみ まあな

たける そんなことわかってるんだよ。あいつ、ずるいよ。昨日きなりやてきてよ、それでいきなりこんなになっちゃうなんてあんまりだろ。おい、そう思わないか。あいつが朋子さんになんやてやたんだよ。あいつが一晩泊めてやたか。あいつがピーター・パンの話したか。あいつが空飛ぼうて言てやたかよ。あいつ、何にもしてないじゃないか。汚いよ。そんな馬鹿なことあるかよ。

ねずみ しょうがないだろ

たける わかてるんだよ、しょうがないってことはさ

ねずみ 忘れちまいな、いいじゃないかよ。仲間だっているんだから。腐れ縁だけども、二人でとにかく楽しくやっていたんだし、あんな女、関係ないよ。

たける でも

ねずみ そんなにあの女が好きか

たける 悪いか

ねずみ 関係ないよ、よし、わかたよ、俺が教えてやるよ。

たける なにを

ねずみ だから、その、女の口説き方だよ。

たける 誰が？

ねずみ 俺が

たける 何を？

ねずみ 女の口説き方だよ。

たける 啞然としてねずみを見める

ねずみ そんな顔するなよ、俺だて女なんだぞ。相手してやるからよ、やてみる

たける おお

ねずみ いいか、まずデートを申し込むんだ。

たける おい、デートしようぜ。

ねずみ お前、朋子さんにそう言うのかよ

たける まさか

ねずみ 俺を朋子さんだと思え。もう一回

たける 今度、僕と、デートしてくれませんか？

ねずみ やればできるじゃん

たける それから、どうするんだ？

ねずみ ほめる。

たける ほめる？

ねずみ 何でもいから相手をほめる、ほれ

たける ……

ねずみ なにしろ、しろ見てるんだよ。俺を、朋子さんだと思え。何でもいから、ほめる。女はそれを待てるんだよ。

たける きれいなほろ服です。ね、そのズボンの汚れのワンポイントがすてきです。あなたのまなざしはまるで、飢えた鶏のようで、

ねずみ てめえ、喧嘩売てるのか！ああ、もうやめたやめた。

たける これからどうするんだよ。

ねずみ お前、まじめにやる気あるのか？

たける うん

ねずみ いよいよデートだ。海でも連れて行く。浜辺に腰掛けて、夕日を眺める。

たける ちろと、六ターンが古くはないか？

ねずみ こういふ昔風なのに、弱いんだよ。朋子さんみたいのは、ほら、波の音が聞こえてくる。夕日がゆくり沈んでいく。

たける うん

ねずみ 夕闇が近づく。そしたらどうする。

たける そちとねずみの肩を抱く。一瞬、うとりするねずみ。が、すぐに我に返って、たけるを突き飛ばす。

ねずみ

気が早いんだよ。そちと見つめるだけでいいんだよ。なんにも言わなくていいよ。いいか、女は自分を見てほしいんだ。世界中の奴らから、ゴミみたいに言われても、な時

々でいいんだ。お前がいるから、俺はがんばれる。つめてくれる人がほしいんだ。
(気分を変えよ) わかたか。

たける ああ。

ねずみ 大丈夫だよ。かこわるくても心を込めて話せば、絶対伝わるよ。

たける うん。

朋子がやってくる。

朋子 似合うかよ。

たける きれいですよ。

ねずみ 俺は腹痛いから帰るよ。ま、二人でがんばってくれよな。

たける おい、

ねずみ じゃあな。

ねずみ 去る。一瞬呆然と見送るたける。でも、すぐに気を取り直して朋子の手を取る。

たける 行きましようか。

朋子 はい。

第六幕

別の街角 克也 人目をばばかりのように携帯電話をかける。

克也 克也でございます。人捜しですか。はいはい、順調に進行中です。実は、その、おんなのお写真などお借りできればと思まして。はあ。ちびとところあたりがですね。

電話 …。

克也 いえ、まだほきりとは、お任せください。お写真さえお借りできれば、今日の夜にでもお届けできるかもしれません。よろしければ、あんなことか、こんなことかして、二度と逃げ出さないうちに思、知らせて…。

電話 …。

克也 いえ、殺したりは、え、おまえを殺す？そんなら、死にたくないです。

電話 …。

克也 会長の娘さん？

電話 …。

克也 会長の娘さんが、なんでまた？

電話 …。

克也 あ、そりや秘密厳守です。ね、結婚式から逃げ出したと、親の面目丸ぶれですね。はあ。

電話 …。

克也 わかりました。丁重に扱います。指一本ふれたりしません。気遣、タダ、お手当、ポリ、これがわたくしのモットーです。そういえば、お手当というか、ご褒美の方は、かほど。

電話 …。

克也 金目当てなんてとんでもない。でも、気持ちだけで結構なんです。あの…。

電話が切れる。

克也 ちきしょう、いいように人をこき使、やがて、今にみているよ。いつまでもおまえらにあごでこき使われるチンカツさまじゃないぞ。あのアホ娘が大島カンパニーの一人娘とは、ね、こいつは使えるネタだな。一勝負できそうだな。とにかく、あのガキどもをみつけないとな。さて、と。

そへ、太郎

太郎 やあ、克也じゃないか。

克也 なんだ、太郎か。

太郎 あいかわらぬ、かがわしいことをしてるみたいだね。いい加減に足を洗わな、ともう、かばってあげられないよ。

克也 おまえにはわかんないよ。ガキの頃からいい子、いい子できたおまえには、な

太郎 なに言ってるんだ。おまえがいまだに大通りを歩いていられるのも、僕が親父に「長い目で見ろ、おまえが頼んでるからだよ」

克也 笑わせるなよ。俺に手を出せないのは、俺のバックに大島カンパニーがいるからだよ。
太郎 そんな馬鹿な話はないさ。

克也 そうやって夢をみてな。現実ほちと汚らしいものさ。

太郎 そうかもしれない。だからこそ、僕はその汚い現実から子供達を守っているんだ。

克也 おまえ、それ本気で言ってるのか。

太郎 本気だとも。

克也 だからおめでたいんだよ。おまえのことガキどもがなんて呼んでるか知ってるか。ズレ太郎ていうんだよ。やることなすことずれてるからさ。所詮金持ち育ちのお坊ちゃんだ。貧乏だつたり親をなくしたりした奴のことはわかりこねえ。

太郎 そんなことはな。

克也 まあ、勝手に正義の味方をきどってる。だが、俺のそばには近づくな。俺は忙しいから、行くよ。

太郎 今の電話か。

克也 なんだ、聞いてたのか。

太郎 ちよとな。人を捜してるのか。

克也 秘密厳守の話なんだ。ばれたら俺はぶち殺される。

太郎 まさか。

克也 大島カンパニーにまさかはないの。どちらのアホと大島の一人娘を結婚させようとしたらしいや。なんか警察関係のガキらしくて、まあ、暴力団と警察の癒着てやつだな。道具に使われてるとも知らず、ちかりその気になってるらしいや。それで女に逃げられちやな。男として最高にみともなげ。まったく顔がみてみたいよ。

太郎 案外近くにいるかも知れないよ。

克也 まあ、俺が娘を連れ戻せば大喜びで結婚式だ。男もアホづら下げて、にたにたしてらんだらうよ。

太郎 多分、結婚式はないと思うよ。

克也 俺をなめてるな。もうちゃんと目星はついてるんだ。今日中にみつけたさ。じゃあな。

克也 去る。

太郎

僕、そんなアホづらかな。まあ、いや、きばりことわたまんな。僕はどちらかというとな、朋子君のような。ああ、うタイプのほうが好みだし。よし、頑張ってお好み焼きをつくるか。みんな、来てるかな。

太郎 去る。

第七幕

公園で行われている夏祭り。お好み焼き屋の屋台が出ている。

たける はい、いらしゃい、いらしゃい。おいしいお好み焼きですよ。

朋子 お好み焼きですよ。

たける はい、はい。……ためえ、買えよ。はあ？買わねえ？ガキだと思てなめてるなこの野郎。

朋子 やめてください。

たける だてあの野郎。あちのたこ焼きなんか買いやがて。あ、ごめんなさい。

そへ、着飾たねずみがやてきて、たけるを蹴りつける。

たける なんだよ、そのかこは。

朋子 きれいですよ。

ねずみ おまえは、お好み焼きを焼てればいいの。

朋子 はい。

ねずみ たけるをちよと脇に呼ぶ。

ねずみ おまえ、告白するんだら、あの女に。

たける なんだ、そのことか。

ねずみ やるなら早くしろよな。

たける いや、まだ心の準備が。

ねずみ なにいつてるんだよ、すぐやれ。

たける 「僕と、今度、デートしてくれませんか。だ、な、見てる。

たける 夢中でお好み焼きを焼いている朋子に近づく

たける 朋子さん

朋子 なんだよ

たける ぼぼぼぼ

朋子 ボール!

たける は?

朋子 ボール取ってくれよ

たける はい。

たける ボールを渡す

朋子 こんどはめちやくちや大きいの焼くからな

たける 楽しみだなあ

ねずみ おい、真面目にやれ

たける 朋子さん、ぼぼぼくとこ、こ、こ…

朋子 小麦粉!

たける え?

朋子 小麦粉取ってくれよ

たける はい。

たける 小麦粉を渡す

朋子 めざすは直径四十センチだな

たける あの…

朋子 早く言えよ

たける ぼぼぼくとこ、今度、デ、デ、デ…

朋子 なんだ?

たける どうかですね

朋子 だから、どうかの焼かしてらてるだろ

たける だから、その、僕と、あの…

たける たける、ねずみの元に逃げ込む

ねずみ おまえ、ふざけている場合かよ

たける だて

ねずみ 情けなくなるよな、せかく教えたやつ、たんだからよ、いいか、男は最後は気合

たける だ
気合い…。おお

たける たける、みたび朋子のそば。思切り低、ドスを利かせた声で

たける おい、朋子

朋子 おお

ねずみ 下品

たける うるさい!

朋子 はい。

たける おまえに言たんじゃなんだよ

朋子 ごめんなさい。

たける 小さな僕だけ、きと君を遠く連れて行ってあげるよ。ネーランドは無理かもしれないけど、僕には僕にしかできないことがある。それを君に見て欲しいんだ、もし君が分かってくれるなら

たける ちょうどそへ、太郎が来る

太郎 やあ、頑張ってるかな

朋子 はい。

たける あの…

朋子 見てください、こんなに大きいのが焼けたんですよ

太郎 すいいな、朋子君は才能があるんだね

たける あいつ、なんとかしてくれよ

ねずみ 泣くな 泣くな しかたないんだよ。

たける うるさい。俺 あいつに決闘を申し込んでやる。

ねずみ やめろよ。負けたら最悪じゃなひかよ。

その間 太郎は特大お好み焼きを試食している。

太郎 おいしいじゃなひか。

朋子 そうですか。

太郎 うん。小麦粉の味がよく出ているよ。余分な具がはいっていないところがいいんだよ。

朋子 シンプルで美味しいよ。

太郎 ちと食ってください。

朋子 いや、こんなに大きいのは僕一人ではね。

太郎 食ってください。

朋子 じゃあもう一切れ。

太郎 おいしいですか。

朋子 ああ、ほべたが落ちそうだよ。

太郎 本当ですか。

朋子 僕が嘘をついたことがあるかい。いや、まだ知り合ってから二日しか経てないね。

朋子 はい、でも。

太郎 包丁を落とすたけるが割てはる。

朋子 やあ、たける君。

太郎 きさま、俺とけは、けは、けは。

朋子 どうしたんだい。

太郎 けこううまそうじゃなひか。

太郎 なんだ、君も欲しかったのか。包丁なんか持てこななくても、ほら、箸で切れるほど、柔らかいぞ。

たける いただきます。

ねずみ だめだ、あいつ。見るるつちが情けなくなってくる。

と、帰りかけたところで克也と鉢合わせする。

ねずみ 痛！なんだよ。

克也 ガキと遊んでる暇はないんだよ。

ねずみ なんだと。

克也 大島朋子！

朋子 はい。

太郎 大島朋子？

克也 俺の目はごまかせないぞ。まったく、結婚式すぼかして逃げ出すなんてとんでもない、お嬢さんだぜ。

たける 結婚！

克也 ガキは黙てる。

たける おい、人真だる、朋蔵、何とか言えよ。

沈黙

朋子

大人にならなくてもいい島に行きたかたんです。結婚なんかさせられたくない、私が本当に大人になるまで、私は子供のままでいたかたんです。私はひとりじゃどこにも行けなくて、でも誰も迎えにきてくれなひから、自分で探しに行くことにしたんです。

たける 朋子さん

朋子 空の飛び方を教えてください。私にも空を飛ばせてください。たけるさん、連れて行ってくれるんですね。私は空を飛びたいんです。ちよと太てるかもしれないけど、わたし、一生懸命やりますから、空の飛び方を教えてください。

たける ああ。

朋子 飛なひんですか。

たける …。

朋子 飛なひんですね。

たける ごめん

朋子 本当に空が飛びたつたんです。大人にならなくてもいい島に行きたつたんです。
たける 太郎！何とかしてくれよ。おまえ、正義の味方なんだろ。朋子さんはな、おまえの

こと、好きなんだぞ。おまえ、何とかしろよ。朋子さん、連れて逃げろよ。

克也 太郎？おまえ、なにしてるんだ。

太郎 お好み焼き屋さんだよ。

克也 お似合ひだ。

太郎 たける君、ねずみ君、ちよと席をはずしてくれなひか。

ねずみ なんだよ、偉そうに。

太郎 お願ひだ。

たける やだよ。

ねずみ 行こう。

たける やだよ。

ねずみ 馬鹿野郎！ガキの出る幕じやないんだよ。

たけるが去っていく。ねずみ、太郎と朋子の顔をゆくりならみつけ、たけるの後を追う。

太郎 克也、僕はアホ顔かな。

克也 なんだよ、いきなり。

太郎 僕がその、アホなんだよ。警察と暴力団の癒着の、そのだしになつたアホなんだよ。

克也 結婚するアホか。

太郎 僕が連れて帰ろうと思うんだが、構わなひか。

克也 こいつと結婚するのか。暴力団とお仲間になるのか。

太郎 そんなんじやない。

克也 じゃあ、どうして……。なるほど惚れちまいましたか。ちえ、結局骨折り損かよ。この貸しは、絶対返してもらおうからな。まあ、今度のところはな、こい、いい役やらせてやるよ。じゃあな。

克也 去る。

太郎 そういふわけなんです。

朋子 あのだ。

太郎 ちゃんと迎えに行きますから、お父さんのところに帰ってもらえませんか。

朋子 ……。

太郎 子供のまま年をとっていくことはできません。僕は、空を飛んであなたを迎えに行く。ピーター・パンにはなれません。

朋子 なぜですか。

太郎 さっき聞いたんです。僕は正義の味方なんかじやない、これが正しいんだつて勝手に決めつけただけの、ちよけな人間だつて。世界は単純じやない。誰かのためにやろうと思つたことが、その人を幸せにできるかなつてわからなひ。そんな当たり前に初めて気がついてたんです。

朋子 はい。

太郎 だから、僕は、あなたに信じて欲しいと言つてはできません。もう子供ではいられない。僕は、どうやたらあなたを幸せにできるか、本当はよくわからなひ、つまづいたり失敗したり、人に迷惑をかけたたりしながら、ちよと迷ひ続けるでしょう。たぶん、それが生きるつことだから。

朋子 教えて欲しいんです。

太郎 はい。

朋子 ネ、ーランドは、どこにもなひんですか。

太郎 ここがネ、ーランドなんです。いつまでも子供でいるわけには、い、か、な、ひ、困つた荷物をたくさん背負つてしまつた僕たちだけ、ここがネ、ーランドなんです。わからなひつことにあきらめなければ、とまどいながら探つことを投げ出さなければ、僕も、もちろんなあなたも、ネ、ーランドの住民なんです。

朋子 はい。

太郎 親の命令でもなく、裏町での偶然の出会いでもなく、このどうしようもなひ、世界に生きるひとりの男として、空を飛んでではなく、地面をしっかりと踏みしめて、僕はあなたを迎えに行きます。待っていてください。

朋子 はい。

朋子 去る。間、たけるが現れる。

たける 一人で帰ったのか。

太郎 聞いてたんだね。

たける 連れて逃げるんじゃないのか。

太郎 ご両親のところに帰るのが一番いいんだよ。

たける 家族なんて大嫌だ！

太郎 そうだね。君は三歳の時、ご両親を亡くしたんだよね。

たける そうだよ。死んじゃったよ。俺は親戚の間をたらい回しにされて、結局孤児院に連れてかれたよ。親のところにいくのがそんなにいいかよ。おまえ、いい奴だと思ってたの

によ。ちやうとうるさげけど、話の分かる奴だと思ってたのによ。

太郎 いい子だから、落ち着いてくれなひか。

たける 落ち着くかよ。大人になんかなるかよ。こんな世界を認めるもんか。

太郎 君にもさ、とわかるよ。

たける わかんないよ。お前、裏切ったんだ。

太郎 そんなことはな。

たける 俺はあいつに教えてやりたかたんだ。俺たちしか知らなひことを。心だけでも飛ばしてやりたかたんだ。

太郎 わかるよ。

たける お前なんかにはわかるか。大人の言葉、話すお前になにがわかるんだよ。

太郎 違うんだ。大人とか、子供とか、そういうことじゃないんだ。

たける 大人の言葉、話すな。

太郎 頼むから落ちついてくれよ。

たける 大人の言葉、話すな。

太郎 君と話したんだ。君にわかってほしいんだ。

たける 話なんてやめろ。今すぐ飛よ。

たける 包丁を手にする。

太郎 たける君

たける 朋子さんのために飛んで見せろよ。

太郎 包丁を渡してくれなひか。

たける 今すぐ飛よ。

太郎 いい子だから聞いてくれよ。

たける 俺はいい子なんかじゃない！

たけるが太郎を刺す。倒れる太郎。たけるが逃げる。

太郎 な話をしよう。きとわかってもらえるよ。

克也がやってくる。

克也 様子、見てたぞ。

太郎 馬鹿だな。止めてくれればいじやなひか。

克也 たけるの気持ちも分かるしな。本気で刺すとは思わなかつたけど。

太郎 ひとことだと思て。

克也 どうせかすり傷だ。お、手をかすよ。

太郎 たける君たちを呼んでくれなひか。彼らには、わかてもらいたんだ。

てめえの傷のことを心配しろ。お前の結婚が巻き起こす大騒ぎのこともな。大変だぞ。ほんとに。

暗転

第八幕

翌朝 たけるが歩いてくる。後を追ってねずみ。

ねずみ 本当に行くのかよ。

たける うん。自首するよ。

ねずみ 太郎も大した怪我じゃなくてすぐ良くなるらしいじやなひか。

たける うん。

ねずみ あのさ おまえには黙ってたんだけど、朋子さんの財布 俺、その、預かってたんだよ。返しそびれちゃってさ。

たける あの、穹ぼの財布か。

ねずみ 裏の縫い合わせのところに一万円札が五枚 たたんでつこんでた。

たける おまえ、財布こわしたのか？

ねずみ まあ、ちよと勘が働いてな。あの人、本当はなにもかもわかってたんじゃないか。

自分の立場も、お前の気持ちも全部分かかって、何かを探してたんじゃないか。

たける ちゃんと返せよな。

ねずみ これは朋子さんの置きみやげなんだよ。馬鹿な俺たちのさだから、これ、おまえにやる。これ持って逃げろよ。

たける ねずみ、おまえいつも言ってる。自分のしたことには責任もたなきゃダメだってさ。俺、負けたと思たよ。だって朋子さんはあいつを信じたんだものな。あいつ、大人

だらなんだよ。

ねずみ ガキのまんま、いいじゃないか。

たける これ、やるよ。

ピーター・パンの絵本を渡す。

ねずみ 馬鹿にするなよ。おまえ一人で大人になるもりかよ。

たける ネーランドなんかどこにもないんだよな。俺が自分つくらな限りどこにもないんだ。俺、絶対太郎よりすごい島をさぐるからさ。おまえも、自分の島を作れよ。

ねずみ おまえと一緒の島じゃダメか。

たける それもおもしろいかもな。じゃあ、俺行くよ。大人になろうなんて思わなけれど、少し頭冷やすよ。

ねずみ しょうがねえさ。

たける 差し入れ待てるぞ。じゃあな。

たける 去る。

ねずみ 馬鹿野郎、カツコつけるんじゃねえよ。ひとりじゃ何にもできなびくせによ。偉そう

なことするんじゃねえよ。俺が一緒にいないと、おまえなんてどうしようもないガキじゃねえかよ。待てるからよ。戻て来よ。

沈黙。ねずみ、手に持っている五万円を見める。

ねずみ うまいもんでも食うか。

と、歩き出したところ、克也

克也 お、なんだよ。何だよ。万札か。どうしたんだよ。その金、景気いいじゃないかよ。お

まえ、泣いてたのか。滅多にお目にかかれなもん。うれし泣きもしょうがないか。

ねずみ うるせえ。

ねずみ、克也に五枚の札をたたきつける。札が勢よく舞う。ねずみ、走り去

る。

克也 ちたいねえ。

と、札をかき集めているとポケットの携帯電話が鳴る。

克也 は、克也です。なんだ、太郎か。怪我はどうだ。病院の公衆電話？やめろ、やめ

ろ。無理は、たける？しらねえよ。話をしたい？お前、まだそんなこと言ってるのか。

大丈夫だよ。あいつだて馬鹿じゃねえ。そのうちわかるよ。お前がばたばたしてどう

するんだ。なんだ、ほら、あの「信じる」っての、それでいいじゃねえか。ばか、こんな恥

ずかしいこと何度も言わせるな。怪我人は怪我人らしく、ベッドでうめいてる。早く直さないと、せかくの婚約者がまた逃げ出すぞ。じゃあな。

克也、電話を切る。

克也 どういつもいつも、馬鹿ばかりだ。

幕が下りる。